サクラソウ日記

自学ノート提出数累計
62 冊(56 人) 6/30 現在

文責　校長　宮脇　真一

暑い一週間でした。そして緊張感のある一週間でした。

感染症、熱中症、双方への対応を取りながら、それでもできる限りの教育活動を展開するため、特に、今週と来週は校外での大事な学習を控えた学年も複数あることから、感染リスクの軽減措置として水泳の学習を中止することを、校長の校内放送で児童に説明しました。水泳を楽しみにしていた児童には酷なお願いでしたが、気持ちを整理しながら状況を理解してくれたとのことでした。一昨日の午後から、本校児童の新規感染は確認されていません。学校では HP に示した対策を引き続き緊張感を持って進めますので、御理解と御協力をお願いします。

地震想定の避難訓練
（令和４年6月２8日　撮影）

～５年生の学びから～　*水俣に学ぶ肥後っ子教室*

「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は、県内の全ての公立小学校及び義務教育学校５年生全員を対象に、水俣病への正しい理解を図り、偏見や差別を許さない心情や態度を育むとともに、環境問題への関心を高め、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的に、平成２３年から実施されています。

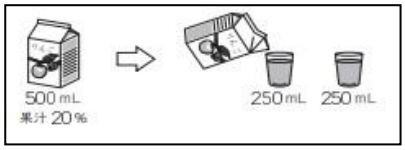
本校の５年生も、来週、実際に水俣に出かけます。５年１組の学級通信にはその事前学習について、次のように記されていましたので紹介します。

昨日から学習を始めた**水俣に学ぶ学習**です。子どもたちには、約１ヶ月前にアンケートを取っていました。水俣を訪れた機会は少なく、知らないことがたくさんあるようです。

１時間目の授業では、**水俣には海がある**というアンケートから、水俣の海の写真をもとに気付きを出し合いました。**きれいだな、何の工場だろう？昔は船がたくさん並んでいて漁師さんがいたのかな？**という素直な気付きがたくさん出てきました。その中で、一番子どもたちが関心をもったのは、**水俣病という病気が昔あった**、という子どもの発言です。**たぶん、たしかそうかも？**という発言だったので、出された気付きとともに本当のことを調べていくことになりました。子どもたちは、**ちゃんとした情報かな、決めつけず本当のことを知る、自分たちの生活と同じ**、と振り返っていました。

これから２８時間かけて学習していきます。人権問題と環境の大切さについて学習を深めていき、自分の生き方を考えていくことをねらいとしています。正しい知識を得るとともに、命や人権を大切にし、環境を守ってきた水俣の人々の生き方や思いに気付くことができる学習にしていきます。そして、自分の生活とのつながりを見つめ、振り返り、自分の生き方を問い続けていこうとする子どもたちを育てていきます。

生きて働く知識



「果汁 20%のりんごジュース 500 ㎖を二人で等しく分けます。果汁の割合は？」この問題を日常のことばに置き換えると「ジュースを二人で半分ずつわけると、味は変わりますか？」ということになります。至極当たり前のことですが、これが算数の調査問題になると、「果汁の割合も１／２になる」と答えてしまう児童が７割近く、、、。「算数のテスト」という特殊な状況だと、子どもたちはちょっと考えすぎてしまうようです。「生きて働く知識」は大津小学校が開発した「生活数理」の理念そのもの。授業と生活のつながりはこんなところにもあります。（本年度の調査問題は https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm）